

# さんさん保育園 自己評価

令和3年度

A・よくできている B・ほぼできている C・努力が必要

1・保育の理念・保育観		評価
1	全ての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している	A
2	あなたの保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識している	A
3	保育所保育は、養護と教育が一体となって行われているということを認識している	A
4	個人情報の保護に配慮し、子どもやその家庭についての秘密を正当な理由なく漏らす事が無いようにしている	A
5	育児の考え方について保護者と食い違っている時、先ず相手の気持ちを受け止め、話し合い、その保護者の立場や考え方を理解するよう努めている	A
6	子どもの家庭環境は多様だという考えの上で、今その子に何が必要なのかを見極め、それぞれにとって適切な援助をしている	A
7	子どもが熱中している時は、その時の保育の内容や流れに変更が生じて、危険の無い限りその活動を見守るなどの柔軟性を持っている	A
8	子どもと一緒に思い切り体を動かして遊ぶことの重要性を理解し楽しんでいる	A
9	様々な特徴(障害)を持つ子も持たない子も、一人ひとりのありのままの姿を受け止め、地域の全ての子どもが健やかに成長する事を願って保育をしている	A
10	児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障する事が保育園の重要な使命だと理解している	A
11	日頃から子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなど精神的苦痛を与えることがないようにしているか	A
12	日頃から「保育所保育指針」をよく読み、その理念を理解した上で保育内容や保育方法を考える時のガイドラインにしているか	B
13	一人ひとりの子どもに目が行き届いているか振り返り、これからの保育課題をみつける事ができているか	A

## 2・保育内容

①保育計画・指導計画		評価
1	指導計画を作成する時「保育所保育指針」を参考にしている	A
2	指導計画を作る時に、地域の実態や保護者の意向・希望などを考慮している	A
3	子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月案・週案などを作成している	A
4	作成している月案・週案・日案などは、子どもの意欲を誘う環境構成が十分工夫されている	B
5	月案・週案などには、教育的側面(五領域の視点)だけでなく、養護的側面(基礎的事項)もしっかり盛り込まれている	A
6	担任同士よく話し合いお互いの考えを十分理解した上で、月案・週案・日案など立てている	B
7	季節感や日本の伝統的な行事など指導計画の中に取り入れるようにしている	A
8	月案・週案・日案が実際の子どもの姿・興味・関心に合っていたかの視点から自分の保育を評価・反省している	A
9	月1回以上自分自身の指導計画の点検・評価を行い、その結果を次の指導計画に生かしている	A
②乳児保育		評価
1	一人ひとりの子どもの出生状況、その後の発育・発達など、成育歴を細かく把握すると共に保護者の状況などの背景を理解している	A
2	哺乳瓶の消毒、調乳、沐浴の仕方など基本的な事柄や、子ども一人ひとりの健康状態などを、随時職員相互で確認しあっている	A
3	授乳について、その子が欲しがるときに優しく抱いて微笑みかけゆったりと飲ませている	A
4	離乳食は、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの育ち具合やその日の体調に合うように工夫している	A
5	おむつ交換は「きもちいいね。」などと優しく声をかけたり、マッサージしたりして、排便の回数、便質を把握して、臀部を清拭している	A
6	赤ちゃんの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージと受け止め、微笑み要求に応じる言葉を優しく返している	A
7	子どもを外気に触れさせたり、適度な戸外遊びをさせたりして健康増進をはかるようにしている	A

8	喃語には、ゆったり応えたり、優しく話しかけたりして発語の意欲を育てている	A
9	絵本を見せながら、その子の指すものに答えたり、優しい言葉を添える	A
10	どんなに忙しくても赤ちゃんの笑顔やしぐさを可愛いと感じ優しい言葉と笑顔で対応できる	A
11	寝返りの出来ない乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにすると共に、睡眠中の姿勢、掛け布団、呼吸等の確認をする。	A
12	一人ひとりの生活リズムや欲求、その日の体調を把握した上で、睡眠時間を調節したりする柔軟性を持ち合わせている	A
③3歳未満児保育(1・2歳児保育)		評 価
1	複数の子どもを保育する時でも、保育士を独占したがる子どもの気持ちも十分満たすなど、子どもの背景に配慮しながら、個別対応の努力や工夫をする	A
2	「出来ないやって」と甘えてくる時はその都度、その子の気持ちを受け止め、一人ひとりの発達に応じて要求を満たす援助をしている	A
3	こどもの「これなーに?」「どうして?」などの繰り返しの質問に、忙しいときでもその都度子どもの質問に答える	A
4	探索活動が十分行えるよう、安全にはよく気を配りつつ、環境を整えた上で、子どもが要求する行動を容認できる	A
5	着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けや言葉かけをしながら、時間を要しても自分からやろうとする気持ちを大切にしている	B
6	食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てる為に、楽しい雰囲気の中で食事が出来ることを第一に考える	A
7	子どもがおもちゃの取り合いなどでぶつかる時、危険がないよう配慮しつつ、子どもの発達の程度や心の動きを考えながら、暫く見守ることができる	B
8	「おや、何だろう?」「これで遊ぼう」と好奇心や興味を引き起こす教材や素材、場を用意する心配りができる	A
9	散歩の時、保育者も一緒に楽しみながら、花や葉、虫や動物などを見つけたりして、子どもと共に自然物や動物への興味・関心をもつことを大切にしている	A
10	子どもと会話をする時に、その子の目線に合わせ話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感する	A
11	自分の表情に配慮しながら、子どもにわかるように、ゆっくり、はっきり、おだやかに、具体的な短い言葉で語りかけている	A
12	子どもに「絵本を読んで」「遊んで」と言われた時に、場面に応じて「待って」と言った場合にも、その理由を伝えその子の気持ちに伝える	A
13	歌を歌ったり、リズムにのって体を動かす時、歌や動きを子どもに合わせて一緒に楽しむことができる	A
14	わがままで「嫌だ」という子どもの内面に配慮しながら、その子の気持ちを肯定的な方向に向けるようにしている	A
15	自分の思い通りにならず、怒ったり泣いたりする子どもに対して、丁寧に話して聞かせたり、気持ちを切り替える時間をとり、ゆっくり待つことができる	A

### 3.

	行 事	評 価
1	行事を保育に取り入れる時には、それが子どもの健やかな育ちにつながる意味をもつことを意識する	B
2	みんなで楽しむとともに、一人ひとりが十分に自分の力を発揮できるような「行事」になっている	A
3	子ども達にとってその季節や時期にしか味わえない有意義な体験となるよう「行事」に工夫を凝らしている	A
4	子ども達が期待をもって「行事」に参加できるように、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育場面を用意している	A
5	「行事」に参加することを嫌がる子どもには、その気持ちをくみ取って、行事の中でその子が活動できる場面を用意している	B
6	「行事」が子どもの生活や遊びから発展していくように、日常保育の結果となるよう心がけている	A

### 4.

	保健活動・安全管理	評 価
1	身長・体重等の測定や医師の診断から、発育・発達の状態を把握して、それを保護者や他の職員に伝えとと共に、日常の保育に生かしている	A

2	体調の些細な変化や異常に速やかに対応する為に、日常的な体調や機嫌の状態をつかむよう努めている	A
3	健康観察で子どもの健康状態をある程度判断することができる	A
4	子ども一人ひとりの体調をしっかり把握し、食事の量や内容を変えるなどの配慮をしている	A
5	睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を観察するなど、SIDS等への予防に努めている	A
6	アトピー性皮膚炎・食物アレルギー等の子どもに対して、医師の指導のもとに適切な対応をしている	A
7	日頃から虐待の早期発見を心がけ、虐待が疑われる場合には、園長に伝えるなどの防止策考えている	A
8	保育室内外の安全点検を、毎日怠らないように努めている	A
9	園庭にガラスの破片など危険なものがないか調べたり、砂場を掘り返して整えるなど、安全な環境作りの努力をしている	A
10	地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練等に参加し、非常災害時に何をしなければいけないか理解している	A
11	そのまま見過ごしたら明らかに危険な行動には、理由を説明して「いけません」「やめなさい」などの言葉ではっきりと制止している	A
12	不審者が侵入した場合に備えて、子どもの安全確保するための対応策を日頃から心がけ、職員間で話し合っている	B

## 5.

	保護者・地域社会・関係機関との連携	評価
1	園での様子を伝え家庭での様子を聞くなかで、子どもの育ちを保護者とともに、考え、喜びあうことができる	A
2	その日の子どもの健康状態や興味を持った遊びなど、必要に応じてお迎え時に保護者に丁寧に伝えるように努めている	A
3	保護者から突然、お迎えが遅くなると連絡があった時にも快く対応するよう努めている	A
4	保護者が育児の悩みや心配事を話してみたくなり、一緒に考えてくれる存在に思えるよう、こちらからすすんで触れ合うことを心がけている	A
5	保育に関する保護者の考えや提案を積極的聞き、保育の流れの中で適切と思うものについては、園長と話し合ったうえで受け入れるよう努めている	B
6	連絡帳を保護者がその内容をよく理解でき、楽しみにするような書き方をしている	A
7	散歩や行事などで、子ども達が地域の人々と触れ合う機会をもつようにするとともに、気持ちよく挨拶をかわしている	A

## 6

	地域の子育て支援	評価
1	日頃の保育内容、子ども達への保育方法の全てが地域の子育て支援につながることを自覚している	A
2	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、積極的にかかわりたいと考えている	B
3	相談の基本原則(受容・相互信頼関係・個別性・自己決定・秘密保持)について理解し、子育て相談に生かしている	A

## 7

	保育士としての資質向上(研修・研究活動)	評価
1	保育士としての義務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努めている	A
2	自分の保育を振り返り自ら問題点や課題を見つけることができる	B
3	自分の保育に対する同僚や上司からの批評や意見を、感情的にならず謙虚に聞き、時には反省する事ができる	A
4	その日の子ども一人ひとりの活動や姿を、しっかり記録に留めることができる	A
5	研修会にすすんで参加する	B

子どもの気持ちに寄り添い、個人差と一人ひとりの成長を見ながらゆったりとした保育を心がけてきました。開園から3年の保育園です。地域に根差した保育園になるように、地域の子育て支援にも積極的にかかわって行けるよう来年度も頑張っていきます。